

吉村知哲, 岩本卓也 編

検査値と画像データから読み解く 薬効・副作用評価マニュアル

田崎嘉一

本書は、薬剤師が薬物療法を患者個々の病態・状況に応じて進めるために、必要な情報や考え方を行うべきことを示した書である。いうまでもなく薬物療法を成功させるためには、個々の患者における薬剤の治療効果や副作用をしっかりと把握する必要があるが、そのためにどのような点について観察すべきかのポイントが示されている。このポイントはとても簡潔に書かれているため、理解しやすいのが本書の特徴である。

また本書が2部構成になっていることも一つの特徴である。前半部は薬効別に薬剤の評価項目が示されており、冒頭に Overview として対象となる疾患の全体像がまとめられているので、全体を把握した上でどのような管理目的で薬物療法が展開されているのかという考え方を整理できる。また、その次には臨床所見と検査およびその目的が記されているので、それを参考にすると患者の状態も把握しやすい。前半部の中心は薬効の評価項目と副作用の確認項目であり、これも要点が整理されているため理解しやすく、病棟薬剤師なども必要時に参考にしやすいものとなっている。最後に評価から介入までフローチャートが作成されているので、悩んだときの助けとなる。さらに管理指導の書き方も記載されて

いるので他の医療職からも理解されやすい記録が作成できる。

また後半部は臨床検査、画像検査の評価ポイントが記載されている。臨床検査についてはそれぞれの臨床検査項目の Overview と評価のポイントがコンパクトに記載されており、検査の目的を把握するのに適している。画像検査については、その検査の概要に加えて画像から得られる所見と疾患との関連を写真入りで解説している。

本書は、そのコンセプトと使い方を編者の吉村知哲先生ご自身が「はじめに」の中に丁寧に解説されている。薬剤師が本書を活用して、これまで以上に適正な薬物療法への貢献が可能となるように編集されたことがよくわかる。検査、薬効、副作用に関して要点をコンパクトにまとめた本書は、全ての薬剤師の役に立つものとなるだけでなく、薬物療法にかかわる全ての職種にも参考になる良書であるといえる。

(旭川医大病院薬剤部教授・薬剤部長)

● B6 変型 560 頁 2022 年

定価：4,400 円(本体 4,000 円+税 10%)

[ISBN978-4-260-04881-1] 医学書院刊